第２回ジオパーク下仁田協議会教育部会次第（報告）

日時：令和４年９月３０日（金）午後３時 50 分～
場所：下仁田高校　１Ｆ会議室

所　　属	氏　　名	出欠	所　　属	氏　　名	出欠
下仁田自然学校	保 科　　裕	出	下仁田ジオパークの会	高橋真理子	出
群馬県立下仁田高等学校	島田　具広	出	公民館係長	小金澤千穂	出
群馬県立下仁田高等学校	徳田　竜磨	出	社会教育主事	有賀　喜紀	出
下仁田小学校	大河原康成	出	下仁田町自然史館	赤 岡　　明	出
下仁田中学校	榊原　秀幸	出	下仁田町自然史館	関谷　友彦	出

１　開　　会

２　協議事項

１）各学校における地域学習の取り組みの現状と計画について

各学校、団体から地域学習の現状について下記の通り報告がありました。

（小学校）

小学３年生は「コンニャクとあさぎ斑」、小学４年生は「ネギ」、小学５年生は「ジオパーク」６年生は、「風穴と世界遺産」及び修学旅行において観光地と下仁田をテーマに進めている。

特に、4 年生は下仁田ネギが全国のネギランク 2 位であることを受けてどうしたら 1 位になれるかを考え、動画でＰＲすることを考えている。

5 年生は、ジオパークを学ぶ他地区の子どもたちとの交流し、その中でお互いの地域を発表しあう。

（中学校）

1 年生は、山車祭りのある修学旅行先（栃木）でお祭りの歴史を学んだり、下仁田の諏訪神社秋祭りの総代から話を聞いた。その中で、祭りの担い手が減少している問題を受け、祭りの魅力発信と生徒たちへの祭りの参加意識向上に繋げられればと考えている。

２年生は、修学旅行先と下仁田を比較しながら、違いをまとめ、南牧中学との交流の中で発表する予定。また企業説明会の中で地元企業の人たちに来てもらい、働くことを学ぶと同時に、地元の企業を知ることを考えている。

３年生は、動画編集の表現方法を学ぶ一貫で下仁田の「教育」「食」「名所」「町並み」について取材をし、PR 動画を作成する。

【意見・質問】

・諏訪神社秋祭りは大字下仁田が中心で他地区にもあるのではないか？もう少し幅広く各地区のお祭りにも目を向けていくのもいいではないか。
・以前は中学生もお祭りに参加していたが、段々参加しなくなっているように感じる。その理由の一つには、各地区の子ども会が機能しなくなっている地域があり、お祭りを担う人たちが減少傾向にある。
・せっかく中学で地元の祭りを学ぶので、その継承に繋げられる地域学習にしていければいいと思うし、地域も地区外からでもお祭りに参加してくれる人を求めているのでうまくマッチングできるようになればいいと思う。
・下仁田高校では、南牧村の伝統芸能「神楽」をコースの学生が指導してもらい、発表会で披露するということをしたことがある。

（高　校）

高校３年生のアドバンスコースの生徒が理科課題研究の一貫でコンニャクをテーマにし下仁田の自然とのかかわりを追求する。

下仁田の自然の成り立ちとしてジオパークを１学期に学習し、２学期にはコンニャク工場の見学、水車による精粉加工の歴史を学ぶ。

（公民館）

従来の、子ども体験が毎年同じようなプログラムで例年行われているのが現状。メニューや講師の固定化によって、参加児童が受け身になりやすい教室になりがちで、参加人数が固定化されている。

こうした現状を踏まえ、「何を、どのように学ぶか」を意識し、令和５年度からは、「アソビバ」「ツクリバ」「マナビバ」の提供。特にマナビは地域から学べることを主体として考えたい。

小学生の「好き」を伸ばせる場にもしていきたいので、子どもたち自身に企画に携わってもらう「子ども会議」を令和４年度から実施し、令和５年度の子ども体験の計画に反映できるようにしていく。

もう一つの目的として、卒業した小学生たちが中学生になっても今度は次世代の小学生をサポートしていく場にもなればいいと思っている

２）今後の教育部会の活動について

各委員から様々な意見が出されました。

・地域学習の総合的な学習の計画立案は学校が主体となっており、そこにどのように地域素材を活かしていくかはその年その年の先生が各々考えることが理想だと思っている。

ところが、先生方は下仁田の事を知らない若い先生が多いので、地域素材をどのようにつかっていいかわからないので、コーディネーターの役割が重要。

また、地域素材を学校教育で活用する方法のもう一つとして、教科書にあるものを地元「しもにた」で学ぶことができればいいのではないか。

・中学校の理科の授業には、ジオパークで扱えそうな単元がたくさんあるので、その一覧表を作ってみた。こういうものをほかの学年・単元でも作ってみてはどうか？

・現在の学校教育は、ICT 化がすすみ、教育が、モニター越しの空間で行われるようになってきている。そんな今だからこそ、ホンモノに触れる体験を大事にしたほうがいいと思う。県外から小学生、中学生がわざわざ見学に来ているというぐらいなのに地元の生徒がそれを知らずに卒業するのは勿体ない。

・従来の学習は総合のふるさと学習の一貫の中で教科の学習を行っていた節があるが、現在学校側で総合学習のテーマ設定を行うので、総合学習と教科の学習は切り分けて、学校が求める形での地域教材の活用を検討していくことが大事。

・例えば中学校の理科の学習を机上で行い、その最後のまとめ的な位置づけでジオサイトを使ってホンモノを見る学習として、試しに今年中学でやり方を工夫してやってみるのもいいかもしれない。

・教育部会は何をしていくのか？－ある種の地域と学校を結ぶコーディネーター的役割にもなるが、それを担うためにはもっと学校に寄り添う必要があるが、そこま

ではできる状況ではない。しかしながらコーディネーターの相談やバックアップができる。そういう立ち位置でもいいのではないか？

⇒これらの意見を踏まえて、次回までに先ずは小中学校の教科単位でつかえるジオサイト一覧表の下案をつくり、それを部会で叩きながら、ほかの先生方の資料として使えるようなものをつくっていこうということになりました。

３　次回の部会開催について

11 月 18 日（金）15：30～　下仁田高校　１F 会議室にて